



発行 ● 鳥取県立鳥取東高等学校同窓会 東雲会
 鳥取県鳥取市立川町5-210 〒680-0061
 TEL 0857-22-8495
 FAX 0857-22-8497
 Eメール torie-h@mailk.torikyo.ed.jp

出版 ● 株式会社 サラト
 兵庫県姫路市北条宮の町172 〒670-0948
 TEL 079-284-1380
 FAX 079-224-7746

題字 柴山抱海氏 (特別会員)

祝 鳥取東高創立百周年

《記念行事(予定)》

- ◎記念講演 6月23日(木:創立記念日)
 場所:鳥取東高
 講師:中江康人氏(山脈37回)、『万引家族』製作会社社長
- ◎記念式典 9月7日(水:「東高祭」同時開催)・記念コンサート
 場所:県民文化会館



ごあいさつ
 同窓会長 石丸 文男(山24)

いよいよ創立100周年を迎える年になりました。東雲会員の皆様におかれましてはお元気で過ごしてでしょうか。コロナウイルスによる感染拡大が3年目に入りました。感染力の強いオミクロン株の猛威に晒されて、なかなか先行きを見通すことが困難ですが、創立100周年の記念式典が開催される9月にはコロナウイルスによる感染が収まり、無事式典が開催されることを願っています。

100周年記念事業のための募金活動も、コロナウイルスの感染拡大と重なり思うような活動が難しく苦戦しておりますが、会員の皆様の熱いご支援、ご協力をいただき全力で進めています。引き続きよろしくお願ひ致します。

鳥取東高等学校の前身である鳥取第二中学校は、大正11年西暦1922年に誕生し、翌年大正12年西暦1923年4月に開校しました。当時の日本は第一次世界大戦の勝利により、列強の一国となり、世界でも有数の工業国となっていました。人々の生活が大きく変わっていき、教育への関心が高まり、当時の鳥取中学校への入学志願者は定員の3倍を超えていたそ

うです。そういう中、鳥取県東部において中学校の新設運動が起こりました。建設費用のことなどさまざまな問題がありましたが、鳥取第二中学校の初代校長となられた林重浩先生の熱意と、現在の岩美町出身の実業家徳田平市翁の、郷土の役に立ちたいという強い思いからの寄付により、鳥取第二中学校が設立されました。このお二人の思いは、現在の鳥取東高等学校に脈々と引き継がれています。

建学の精神である「克己」「親和」「進取」は現在の生徒信条「日々自らを鍛え、進取の気をもつことに当たろう。」「互いに親和し、常に切磋琢磨を続けよう。」「自らの責任を果たし、社会に尽す心を持つ。」「にその思いを伝えていきます。我々卒業生は積み重ねられた100年を、これからの100年へとしっかりと繋いで行かなければいけません。

この3月に吉報が入りました。徳田平市翁の鳥取市名誉市民が決まりました。記念すべき100周年の年に最高の知らせとなりました。これまでの多くの方のご尽力によるものであり、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



「校歌」とは

令和3年度創立記念式典式辞より(抜粋)
コロナ禍の在校生にこんな話をしました。

校長 中島靖雄

今は、新型コロナウイルスの影響で開催できていませんが、例年はOBやOGが集まって東京や大阪で、同窓会を開催しています。私も、毎回欠かさず出席してきました。そこには年代を超えて100人を超える卒業生が集まります。

社会に出たばかりの20代、社会の中心になって働いている30代、40代、50代の方、引退された60代、70代の方、中には車椅子で参加されるご高齢の方もいらっしゃいます。

校長の役割はというと、東京や大阪で頑張っている同窓生に、母校の後輩たちの頑張りを報告し、OB・OGの皆さんに元気になってもらうことです。

お酒も出ます。飲みすぎてください人もいます。
昔話にも花が咲きます。そんな同窓会、わずか3時間ほどですが、その最後の最後に何をしたいと思いますか？

最後の最後に、みんなで校歌を歌うんです。音楽的にはとても上手とは言えません。でも、私、いつも感動するんです。

さまざまな年代の同窓生が集まって、お酒を飲み交わし、昔話に花が咲き、その最後の最後にみんなで校歌を歌う。笑顔いっぱい、歌う人もいます。涙で目を真っ赤

にしなから歌う方もいらっしゃいます。次は出席できないかもしれない。これがみんなで歌う最後の校歌かもしれないと言っておられました。そのとき、私は思いました。もしかしらば校歌というのは、在校生じゃなくても同窓生のためにあるんじゃないかって。

在学中に何度も歌う校歌、あれは実は練習で、今この同窓生が歌っている校歌が本番なんじゃないかって思っています。

高校を卒業して40年ぶりに校歌を歌った方もおられました。でも40年間一度も歌ってなくても、40年後にちゃんと歌える。校歌というのは、そういう歌です。

皆さん、もしも何年か先、同窓会に出て校歌を歌うことがあったら、今の話を思い出してほしい。

今、残念ながらコロナの影響で、大きな声で校歌を歌うことはできません。校歌練習もできていません。でもいつかコロナが去って大きな声で歌えるようになったら全員で心一つにして校歌を歌ってほしいと思います。

そのときのために、今一度この校歌のメロディーや、その歌詞を、今日この創立記念日の機会に見返してもらえたらうれしいなと思っています。



徳田平市氏の「鳥取市名誉市民」認定を祝う

元東雲会会長 八村輝夫

この度、鳥取市は鳥取の教育に大きく貢献したとして徳田平市氏を名誉市民として顕彰することを決定しました。これは鳥取東高卒業生として誠に嬉しい限りです。推挙して頂いた鳥取東高同窓生と鳥取市民有志の方々に敬意を表します。

徳田平市氏の十五万円(鳥取市負担予定の二万五千元を含め)という多額な寄付は、当時県議会で混迷を極めていた中学校新設問題を一挙に解決し、鳥取東高の前身、鳥取第二中学校が誕生することになったのです。当時の鳥取市の一般会計の年間歳出額が約三十万円前後であったことから見てもその寄付額の大きさが分かります。

大正に入って中学への進学熱が高まり、大正十年の鳥取中学の志願者は定員の三倍にもなっており、新しい中学校の創設が議論されて

いました。しかし、米子、鳥取の地域的な誘致運動と、地域と結びついた憲政会、政友会の政争のため、大正十一年十一月の県議会は中学新設問題で膠着状態になり、休会せざるをえない状況に陥りました。米子には十四万円の寄付により、米子工業学校の新設は決まっていたのですが、鳥取市議会では中学校新設の要望を決議したものの、市には建設費を負担する余力はありませんでした。

当時の岩田衛知事は東西の中学校のバランスなどから考へて、鳥取市に中学校を新設すべきとの考えでしたが、地元から十五万円の寄付がなければ県議会の承認が得られないと考え、鳥取中学校の林重浩校長に相談したのです。林校長は、大敷網漁法で成功していた徳田平市氏が平素から





創立功勞者 徳田平市氏



初代校長 林 重浩氏

鳥取県の人材輩出が少ないことを嘆き、人材養成が急務であると考えておられたことを知っていたので、直ちに岩田知事に具申し、即日下関に赴き、徳田平市氏に面会し、この旨を伝えました。徳田氏は林校長の懇願を聞き、四時間の後、五年の分割により十五万円全額を引き受け

る旨回答しました。ただし、引き受けるについては将来この学校を七年制の高等学校にすることを条件とし、その際には建設費用は徳田氏が全額引き受ける申し出たのです。林校長は直ちに帰鳥、岩田知事に報告しました。こうして中学校新設問題が一挙に解決したのです。そし

て大正十一年文部省から鳥取第二中学校新設の認可が出、林重浩氏が校長に任命され、翌大正十二年開校となったのです。

初代林重浩校長の教育方針である自由闊達で鉄拳制裁のない学校、コールテンの制服、折襟で霜降りの夏服などしやれた雰囲気で、七年制の高等学校の計画もあるということで県下から英傑を集めることとなったのです。林重浩校長が、その自由闊達を旨とした教育方針が貫いたのは、徳田平市氏があつてこのことだと考えます。徳田平市氏はイギリスのパブリックスクールのような自主自立の教育を考へておられたようで、学校教育については林重浩校長の教育を尊重し、寄付者が学校に顔をだせば、教育に差しさわりが出たはいけないと学校に行くことさえ遠慮されたと言われています。

徳田平市氏は几帳面で謙虚、人情味が厚く春の陽を思わせるような人柄だったといわれています。一方では緻密な頭脳で大胆な決断のできる人であつたようです。林校長の懇願を受けた

徳田氏は、漁業は大漁の時もあれば、不漁の年もある、天候次第では漁ができなかったり、漁網が破れることもあるし、船舶が破損、沈没することももある浮沈の激しい業界である。十五万円の寄付を引き受けるについてはあらゆる場合を想定し、五年分割であれば何か引き受けられると考へ、回答したと後に言っておられます。実際に寄付は楽ではなかつたようで、終わった日には、家族に皆に迷惑をかけたが、やっと終わったと告げられたということです。

徳田平市氏あつての林重浩先生の鳥取二中、鳥取市の教育だと思つていきます。



徳田平市氏の「鳥取市名誉市民」認定を祝う

東京支部

鳥取東高の創立100年を祝して

会長 林田英樹(山12)

私たちの母校鳥取県立鳥取東高等学校が創立100年の記念すべき年を迎えたことを、心よりお祝い申し上げます。私が卒業したのは、既に61年も前のことになりましたが、良き師、良き友に恵まれた学園生活が深い感謝の気持ちと共に思い浮かんできます。

同窓会の東京支部である東京東雲会は、発足してから67年になりますが、前任会長の鈴木誠名誉会長など諸先輩のご尽力で母校の校風のような自由で明るい会となり、現在の会員数は約500人となっています。平成29年に会長に就任して以来、同窓会活動の充実、母校に対する最大の応援だとの思いを持って、会の更なる発展に努めております。

会の最も重要な活動である年一回の総会・懇親会は、毎年7月の最初の土曜日の正午から霞が関の法曹会館で開催しております。母校や東雲会本部からの近況の報告を頂き、各方面で活躍する同窓生の講演や演奏を聞き、本部からの差し入れの竹輪、西瓜などふるさとの味を楽しくて懇親を深める会となっております。



近年の総会の様子は、ホームページに掲載しておりますので、ご覧頂ければと思います。コロナ禍の影響で、残念ながら一昨年、昨年と中止せざるを得ませんでした。感染症が収まり次第再開したいと考えておりますので、奮ってご参加をお願いいたします。

若し人の参加を増やすことが課題になっていますが、役員の若返りを図り、会報の発行やホームページの立ち上げなどをおかげで次第に増え、有難く思っております。学生の総会・懇親会会費は千円としておりますので、東京方面に進学した人には是非とも誘い合つてまず一度顔を出して欲しいと考えております。

今後100年経つても、文武両道を目指して部活や生徒会活動など幅広い体験を促す伝統の校風が変わることなく、社会のリーダーが輩出する学校であることを祈りいたします。

東雲会 創立百周年 おめでとうございます 会長 中川 澄(山17)

私の父正男(昭和二十七年十一月三日没)は名古屋から疎開後昭和十九年九月〜二十三年五月まで体操教師として東高に勤務。会報「しのめ」第五号「昭和二十一年第一回米子・鳥取間駅伝優勝」の写真。第十二号「終戦直後 コール天……」の写真に父が写っています。

私が三歳の時叔父悦二(昭和二十六年卒)が卒業直後に自転車で行ったのが初東高。兄浩(昭和三十六年卒、平成二十九年八月五日没)の三年生の東高祭見学。仮装行列で墨で体を黒く塗って仏像に扮していたのが印象的でした。昭和三十八年入学、四十一年卒業。

専攻科入学四十二年卒業。

私達は団塊世代の真っ只中でした。十二クラス六百六十人でした。ベリーロールのフォームを褒められた記憶があります。

クラス対抗の球技大会は一年の時からかなり強かった。二年の時のバレーは決勝で三年生に惜敗でした。

一年生の秋、青春病で落ち込んでいた時「死ぬなよ」と声を掛けてくれた金本明夫君。

彼はクラス一の人気者でした。クラスのリーダーの選手でした。彼の家で朝方まで話し込んだこともありました。就職後、東京で深夜映画「ウエストサイド物語」「ワイルドバンチ」の二本立てを朝まで二回見ました。どちらも民族問題が絡んだ映画でした。

昭和四十七年秋彼から電話で津軽に行きたいから二万円送つてと言われて送りました。彼は太宰治の大ファンでした。

多忙を極めていた私は気が付きませんでした。「死ぬなよ」の言葉を返せませんでした。その後連絡は途絶えていました。昭和四十八年八月十二日彼は自死しました。彼と出会えたことが私にとっては宝物です。「津軽」はまだ読めずにいます。

東雲会 母校の地層から 会長 岡田俊一(山12)

母校の学び舎は、柏葉紀と山脈紀の2つの地層の上に育まれています。山脈紀の第12地層から若干の化石を発掘します。戦後の混沌とした学制改革の時代から「四当五落」なる言葉で象徴される受験競争が激化して行く時代でした。

入学説明会は、マンサード型体育館(大正15年建設)でありました。屋根を覆った銅板は解体時に集められ現在の東高校正門に校名の銅板として残されています。このことは後年早田先生からお聞きしました。

3年生になると長髪が許可をされ、正門の右手に建設された各階2教室の3階建ての鉄筋校舎へ入ることができました。県下の高校で最初の鉄筋校舎とも言われたのですが地盤の補強工事が不完全で校舎全体が徐々に傾き机の上にビー玉を置くと転がりました。

東高祭は最大の学校行事で、生徒会では何日間にするかで学校側と話し合います。生徒議会は昼休みに開催されましたが5限目に延長しても公欠扱いでした。

東高は家庭的で自由な雰囲気のある学校でした。私たちの学年までは下駄履き登校も禁止ではありませんでした。校則は他校に比べ緩やかであったと思います。友人とともに教師の家を語り合う悩み多い疾風怒濤の3年間でした。

1961年(昭和36年)61年前の春、それぞれの進路を目指してタンポポの綿毛が風に吹かれて飛び散ります。進路先が決まった友人の旅立ちを駅のホームで紙テープを持って次々と見送る日記の記述があります。見送る側の多くは浪人です。入試の可否が決まり喜びと慨嘆が交錯。教師や友人の家を夜遅くまで彷徨した混沌とした時間を綴っています。

当時のバンドラ日記から。4月7日(金)鳥取駅を発つ。駅には友人10人とF先生と母が来ていた。H君の見送りのときに使ったテープを拾い集めつなぎあわせて皆で名前を書いてくれた。

生き方に大きな影響を与える3年間を共有できる仕事につきたいと、高校教師を目指しました。そして現職時代の私の理想の学校像は東高時代の3年間でした。今は、社会的な役割や子育ても終え、時間的な余裕のあるご褒美の時間を過ごしています。仕事人間は職場を離れると人との繋がりが切れがちですが、故郷で過ごした時代へと帰帰できる同窓生とは年代を超えて語り合うことができます。



建設中のマンサード型の講堂兼体育館。(大正15年)



陸上部の部室を移動する12回生。(昭和35年)

多くの地層が重なりその上に100年の年輪をつけた母校があります。さらに地層が重なりそれを基盤として次の世紀へと母校が続くことを願っています。

鳥取県立鳥取東高等学校 創立百周年記念事業 同窓会『東雲会』募金事業 経過報告 (2022年3月末現在)

【創立百周年募金対象記念事業】

- (1) 東雲奨学金：2,000万円
- (2) トレーニング・ジム改修：1,000万円
- (3) 記念式典等費用：1,000万円

募金目標額：4,000万円

【募金達成状況(2022年3月末現在)】

- ☆ 個人・団体による寄附：22,575,178円
- ☆ 広告料(記念誌ダイジェスト版への広告)：4,000,000円

合計(現在の募金残高)：26,575,178円 (達成率：約66.4%)

- * 「創立百周年 同窓会『東雲会』募金事業」は現在も進行中です。
- 「振込方法・振込先」等の詳しい情報は、下記の要領で入手可能です。

◎鳥取東高等学校ホームページ → 東雲会(同窓会) → 同窓会(本部)とお進みください。

令和4年度 同窓会(東雲会) 定期総会及び各支部総会の日程について

下記の日程で予定しておりますが、社会状況により延期・中止となる場合がございます。今後の詳しい状況・日程につきましては、鳥取東高または各支部のホームページ等でご確認ください。

鳥取東高等学校同窓会 東雲会総会ご案内

日時 令和4年8月6日(土)
役員会 14:30～
総会 15:00～
懇親会 中止
会場 ホテルモナーク鳥取
鳥取市永楽温泉町403
TEL 0857-20-0101
会費 なし

東海東雲会総会ご案内

日時 令和4年11月12日(土)
会場 検討中

京阪神東雲会総会ご案内

日時 令和4年11月19日(土)
会場 大阪キャッスルホテル(仮予約)
大阪市中央区天満橋京町1-1
TEL 06-6942-2401
※7月頃に最終決定の予定です。

東京東雲会総会ご案内(母校100周年記念総会)

日時 令和4年7月2日(土) 12時開会
会場 法曹会館
千代田区霞が関1-1-1
TEL 03-3581-2146
会費 一般5,000円 学生1,000円

6月初会員の皆様へご案内いたします。
コロナ感染の状況により中止となる場合があります。
その場合は、ホームページにてお知らせいたします。
公式HP: <https://tokyo-shinonomekai.jimdo.com/>

日時：令和3年12月26日(日) 10:00～12:00

場所：鳥取東高等学校 校長室

対談者：(東高の在任期間)

藤原 辰広 元校長
2012.4(平成24)～2016.3(平成28)

尾室 真郷 元校長
2016.4(平成28)～2020.3(令和2)

中島 靖雄 現校長
2020.4(令和2)～

石丸 文男 同窓会長
2020.8(令和2)～

司会：滝波 和宏 同窓会事務局長

創立百周年記念対談

(校長編)

パート3

鳥取東高教育の現在と未来

1 校長として大切に してきたもの

(滝波) 教員生活の経験等を振り返り、校長としてどのような想いで東高の教育に携わってこられたのかをお聞きしたいと思います。

(藤原) 平成24年4月から4年間、鳥取東高で校長を務めました。その前の2年間、県教育委員会に勤務していました。その時、鳥取県の高校全体を見る中で、鳥取東高

はこういう学校になつたらいいなあとか考えていたのですけれども、東高に赴任して一番思ったことは、自分の夢をしつかり語れるような生徒になつて欲しいということでした。そのためにも外を見てみることを考えて、在任中、東日本大震災があった東北に生徒を派遣したり、理数科で関係ができた長崎県の高校に職員を派遣してお互いの交流を図ったりする中で、子どもたちや職員

にもいろんな刺激を与え、広い視野を持つて将来こういう生き方をしたいと考えられる人間が育てられたらと思つて4年間校長をさせていただきました。

(中島) 長崎北陽台高校とは、教員が向こうから来ていただいて授業してもらつたり、うちの教員も向こうに行つたり。今年、修学旅行を兼ねて理数科生徒同士の交流ということでお互いが研究発表をし



合つて、とつてもいい繋がりができていると思います。

(藤原) それはありがたいですね。何年も経つているのに、残つているということはうれしいことだな。

(滝波) 東日本大震災の時期に校長をしておられたわけですか。ある意味、日本の大きなターニングポイントになるような後で、具体的にはどういうことを生徒とともにやつてこられたのでしょうか。

(藤原) 校長として、本校の生徒にもそちらで活動をされているような先生の話を聴かせてやりたいと思ひまして、講演会をして。それを聴いた子どもたちが、実際に自分たちも行って見てみたいということがあつて、急遽40人ぐらいの生徒と職員がバスに乗つて行って、実際の現場を見てきたと。みんな津波にさらわれていて跡形もないという状態で、ここに何があつたのだろうかという想像力がなかなか働かない。そんな状況ではあつたんですけど、毎年のように行きました。この東日本大震災や大きな災害を知つている子と知らない子では、未来像っていいですか、いろん



藤原元校長

なデザインを構築するには、知つているということが必要なことじゃないかと思ひました。

(尾室) 初年度は、東北までバスで行かれたのですよね。本当に大変でした。後を受け継いで、3年連続で行つた生徒もいます。毎年こう変わつていくんだとずつと心に持ちながらですね。そこを見つめ続ける生徒が誕生したことは、やつぱりこの事業はすごいことだつたなと思ひますね。

(滝波) 続きまして、尾室先生よろしくお願ひします。

(尾室) 校長になつた時に、何を受け継いで守つていかなければならないのか、何を変えていかなければいけないのかというのを、ずつと悩んでいました。日本には、千年以上生き残つている会社が7社あるんですが、その会社には共通していることが3つあると思います。



尾室元校長

1つ目は、設立の理念を守り続けて、新しい変化に対応していくということ。2つ目は、従業員みんなが情熱を持って取り組んでいくこと。3つ目は、顧客第一でないといけない、謙虚であるということ。それを、この変革の時代に学校にどう当てはめようかと、職員会等で伝えました。1つ目は鳥取東高の創立の理念「自由闊達」それから「師弟同行」という、受け継いできた理念にどんなふうに命を吹き込んで、新しい風に向かっているのかということ。

徒たちにも、職員にもいつも伝えていたことがあります。「二兎を追う者は一兎をも得ず」じゃなくて、「三兎を追え」ということを言い続けた気がします。「部活動」、「勉強」、「学校行事」、この3つを、ともかく全力で取り組んでもらいたいという思いで、この方針を貫きました。

勉強においては、自習室を1年中開放しました。生徒たちが学校を頼る、面倒見のよい学校であるということは、絶対譲れないことでした。いつも「師弟同行」だなと楽しみながら、運営したものです。

(滝波) 中島先生、よろしくお願います。

(中島) 不易ということについて言えば、僕はとつても考え方はシンプルで、学校というのは将来生徒たちが幸せになつてくれるような教育を提供するというか、そういう場所なのだろうなということ。いつも考えています。だから、果たして、生徒が10年後に幸せになつてくるだろうかというの、いつも、ものを考える時の基準にしています。もう一つの不易ということ。例えば「三兎を追え」という言葉が多分ずっと受け継が



中島校長

れてきたんですが、私の方針も最初から三兎を追おうということ。生徒にも示し、中学生にも言い。この考え方は実は先生方にも定着しているのじゃないかなと思うのです。

例えば、生徒から生徒に受け継がれていく伝統もあるのだけれども、東高に来たら東高の伝統ってこうだということ。教員が意識していると思うんです。うちの先生はね東高ってこういう学校だ、こう繋いでいかないと、けんといふ想いは持つておられると思います。だから、学校行事一つにしても、止めてしまえば簡単なのだけれども止めないです。去年もコロナ禍の中、学校祭は50%（の収容人数）制限がかかって産業体育館だったら2,000人入りますよと、そこに入れて学校祭をやりました。何とか工夫して、学校行事も大事にしようという気持ちがあつてですね、とってもいい学校だなと、僕は思っています。

(滝波) 同窓生ではない新しい校長さんが来られて、ひよっとしたら、それがまた新しい息吹が入るのじゃないかなと思うのですけど、そのあたりは、何か想いはありますか。

(中島) 1つは、皆さんが感じておられると思うんですが、面倒見のいい学校です。東高が創立された頃の鳥取二中の時代の文章に、既にうちは面倒見のいい学校だつて書いてありました。これはすごいなあと思いました。ただ、面倒見がいいっていうのが、100%手取り足取りになつてしまうと、今度は自立を妨げることになるので、一番大事なものは、コーチングみたいな視点でついででしょうか。こうしてみたらっていうアドバイス、やるのは自分という考え方がいいのかなと思つています。面倒見の良さを持ちながら、生徒が自分たちで動いていく。「鳥取学」なんかはとつてもいい取組だなと思つています。

学を見据え、想いを述べていただければと思いますので、よろしくお願います。

(石丸) 我々、企業の人間からしてみると、もつと（地元企業に）来ていただきたいなと思うのですけども、なかなか来ていただけない。鳥取のことをよく知らない、鳥取の企業も自分たちのことをあまり話していない。そういつたところを、もつと小中学校からやつてもいいと思うんです。地域に残る、もしくは、大学は外に出てもいいから、帰ってきて、地域のことを一生懸命やるといふ人が、もう少し増えるためには、それが要なんじゃないのかなというふうに感じます。

自分の会社のことを言つても何なんですけど、松江で私塾をやつています。そこでは小学生から論語を教えています。それから礼儀作法や地域の歴史などを教えています。これを続けていきたいなと思つています。

(滝波) それでは三校長の話を読ませて、地元の地銀のトップとして、今の鳥取県の地域が抱えている問題とか、学校教育、特に、直接就職をしてくる行員さんの出身高校、大

もう1つ思つたのが、企業から見れば、理系・文系という分け方がもうないんですね。我々も銀行という仕事でもいいというふうに言つていますし、いわゆる理系の人

間もかなり入ってきています。あとは人間性なんですよ。

2 今後の教育に必要なこと

(滝波) AIとかITが普及した社会の中における学校において、人に会わなければならぬという場面が、民間の企業なんかにも大変多いと思うんですけども、果たして人に会うということが、オンラインでそう言えるのかどうかという辺りも含めて、学校現場において、これからITとかAIのある中で、まず、藤原先生から、教育における「不易」と「流行」みたいなのが何かあったら教えていただきたいと思えます。

(藤原) 教育における「不易」は、要するに、生まれて育って大人になっていくに当たって、自分自身が成人した大人として、しっかり社会に貢献できるように、そういう人間に育てていくということ、これはいつの時代も変わらないだろうなと思えますね。「流行」という面が、今言われたAIだとか、そういうものが入ってくる中で、どういうふうにならぬか、それを活用していくのか。それに取って代わられて、支配

されるんじゃないかと、いかにAIや機器を活用して、子どもたちの人格の形成、人間形成に寄与していくのか、「流行」の部分じゃないかなあと思えます。

(滝波) 私の素朴な疑問ですが、高卒で就職していく生徒もいることを考えると、高校は社会への出口ということになります。高校では、IT化・AI化が進む必要最低限のことを取り入れて教えて即戦力にはならなくても、基礎力をつけていってこれれば良いというレベルなのか。それとも即戦力として使えるようなところまで、学校現場のIT・AI化を進めて、それに対応すべきかどうなふうにお考えになりますか。

(藤原) 私は、必要最低限という基本を持っておればよいと。要するに、社会に出てからほとんどどんどん変わっていくわけですから出てすぐに即戦力の人を育てたいのか分らない中で、そこは自分で対応していく問題、対応するだけのベイスをしっかりと持つておればよいのではないかと思えます。

(滝波) 尾室先生の話の中に、「師弟同行」という言葉が出

てきました。これ、すごい危機感だと思われませんか、IT化・AI化というのは。

(尾室) そこには、新しい風を吹き込んでいくべきなのだろうなと思えます。先ほど、会長さんが子どもたちに論語を教えているというのを聞き、人格の形成、人間教育をとつても大事にされています。これこそ、今必要な教育なのだろうなと思えます。たとえ学校がICT化されても人と人の血が通った教育というのは、本校の絶対に譲れないところだと思えます。

(滝波) 中島先生、今、関わっておられる校長先生として何か御意見がありますか。

(中島) 本当にそのとおりで、教育っていうことから考えると「教える」ということと、もう一つは、「育てる」という視点があると思うのです。「育てる」という視点から考えると、やっぱり人と人が直接、対面で出会わんと育てることは難しいのじゃないか。やっぱり対面していきたいなと思っていますね。

(滝波) AI・IT化は必要最低限のところ、即戦力つて

いうことではなくても、企業に入ってから学ばばいいわけだからという辺りですが。



石丸同窓会長

(石丸) さっき、企業に入ってからAIじゃできない部分って言うのは、人と会うことと言ったけども実はもう1つ、決断することだと思っております。それは別にトップじゃなくてもAIに決めることを任せちゃ駄目なんで自分で決めるということ。自分が決めたって言うことは、それだけの覚悟が必要で責任が出るということ、そういうことを高校というか教育の中でも教えていかなきゃいけない部分だと思えます。

(滝波) 話題を変えたいと思えますが、「部活動の社会体育への移行」というのがありました。教員の働き方改革で、小中学校の教員の労働時間を軽減するために、地元の人の子とかに見てもらおうような方向に行くようになっていますが、

東高の「不易」のところ、影響を及ぼすような働き方改

革じゃないかと思えますが。

(藤原) 結局は子どもをどう育てていくのかというところにおいて、教員として子どもたちと関わるっていうところが一番大事なことで、関わるということ、大事部分、部活を社会体育の方に任せていくというように軽々に譲れるのかという部分が、多くの教員にはこだわりとしてあると思えます。

(滝波) 現場の教員がそういう想いを持っていても確実にその方向に進んでいくのでしょうか。予算とかがついたりして社会体育への移行というのが。

(藤原) ただ一例として小学校での部活動がなくなりましたよね。それで教員の時間が増えて子どもたちと接する時間が増えたかというところ、そうじゃないですよ。

(尾室) 藤原先生が言われたように方向性は変えられない。ただその中で、どう目的を持って関わらせるのかということを考えていかなければならぬのかな、と。

(滝波) そこで、中島先生に質問したいのですが、今、現場に関わっておられる校長先生として、その社会体育への移行が業務の軽減につながるかどうか辺りの思いはどうですか。

(中島) エネルギーがある人は、どんな活動もしたいし教科の指導もしたいし、生徒でも部活もするし、外に出ていろいろんな活動もするし。でも、今の感じだとどんなやり方になりたいという生徒や先生もここで終わり、もうこれ以上はしたらいけんっていうことになつてしまふわけですよ。金銭的な手当も、全然、教員はないわけですから。それは線を引くのが当たり前かも分からんけれどもね。そこって難しいところだなあと。兼ね合いがね。

(尾室) 保護者とか子どもたちの期待だけでやっていくのは本当に大変なものです。そこでいい具合にすみ分けてきたらなあと思います。誰が指導しても、上手く機能できなかったらなあと思うんです。

(藤原) そもそも時間外っていう概念がね、教員の場合なかなか難しいじゃないですか。



滝波同窓会事務局長

そういう意味では、教員の働き方の中の時間外という概念は、なかなか難しいんじゃないかなというふうには思います。

(石丸) そうですね。企業の場合と根本的に違いますからね。企業の場合は、自分で勉強するのは仕事外なんです。

(中島) 教員って、授業をしたり行政的な事務仕事もしたりするけど、専門的なところもあつたりね。

(滝波) 生徒たちが幸せな人生を送るために高校の時に社会の変化を加味しながらどういう力を付けていったらいいかっていう、すぐには結論が出ないようなポイントですが、その辺りについてどうでしょうか。

(石丸) そうですね、我々の時は大学入って勉強以外のこともできたんですよ。だけど、今の子どもたちはそうじゃないんですよ。その中で自分

の幸せを見つけていく術というのが非常に難しくなっている。そういうことが何か教えられないのかって言うのはあります。例えば冒頭に言った地元に残るといふこと。今までは経済成長していくから都会にいる方が楽しいと。これが今だと(地元では通勤や住宅問題など)余裕のある生活ができる、そこに幸福を求めるとか。ただ、それは数字になかなかできないんで教えるのは難しいかもしれないけども。

(滝波) 「豊かさの感じ方を教える」というキーワードが出てきました。その辺りは中島先生お願いします。

(中島) 生徒に伝えたいことは結果的には入学式であつたり、始業式や終業式であつたり、そこで生徒の心に、プラス的な意味で残るような話をしたいなあと思つて、いつも考えながら話をしています。この間の終業式では、生徒に「自分がプラスの発信をしたら、相手からもプラスが返ってくる」というような話を具体例を言いながら、心にこんな話が残ってくれたらいいなあっていう人間性の部分を、式辞では話すようにしているところ

ろです。

(尾室) 成功を考える時代が終わるんじゃないかなあ、というより、そもそも何が成功なのか分からなくなる時代が来そうなんです。そうすると、教えることでよりよく生きるとか、人の役に立つということが残っていくのでは。だからどんなふうに生きるのか生きたいのか、どんな人間になるのかということがより重要になつていくのでは。未来の時代に活躍する生徒のために、柔軟で時代に即応した教育を行っていくべきなのでしょう。生徒にこれからの生き方だとか在り方、どうやって過ごしていくのかを教えることに取り組んでいきたいなあと思つています。

(藤原) 生徒に付けたい力というところで言われましたけども、適切な距離を保つて人と接することが出来る力かなと、そういう多様性を認めながらもおかつ相手を尊重できる姿勢を持つ人を育てるっていうところが、そういう力を個々が持つていくとよいなあと思つています。そういう生徒をたくさん世に送り出したらいいなと思つています。

(滝波) 最後に藤原先生にお言葉をお願いいたしますので、よろしくお願ひします。

(藤原) これから150年、200年と続いていく学校であり続けて欲しいなあと思つておりますし、伝統とか学校そのものがまとつていける雰囲気だとか空気が、生徒のみならず教職員にも受け継がれていくのじゃないだろうかというふうに思います。そういう意味では、いろんな先生方の個性やいろんなものが溶け込んでいって、学校の伝統ができていく。そんな空気ができて、これからまた50年、100年と新たなものを創りながら学校が発展していけばと願つております。

(滝波) 本日は、どうもありがとうございました。



★六月、同窓会報『しののめ』第十七号を発刊しました。

★六月二十三日（水）創立九十九周年記念式典が挙行されました。

★コロナ禍により東京東雲会総会（七月）・東海東雲会総会（十一月）・京阪神東雲会総会（十一月）が中止となり参加できませんでした。

★八月七日（土）本部同窓会総会を開催しました。（懇親会は中止。）

★十月十日（日）同窓会ゴルフコンペ「東雲会長杯」を鳥取カントリークラブで開催しました。



第9回

東雲会 会長杯ゴルフコンペ報告書

順位	競技者名	GROSS	NET
優勝	山根 宏	85	67.2
準優勝	橋本 幸代	92	68.3
3位	伊藤みつる	76	68.9
4位	橋本 和憲	73	69.4
5位	西田 源良	80	70.5
6位	今西 正一	73	70.6
7位	奥村 正行	86	70.6
8位	奥谷 学	91	70.9
9位	森田 進	91	70.9
10位	井関 顕人	89	71.2
11位	安藤 嘉美	81	71.5
12位	竹内 貴裕	99	71.8
13位	甲斐 摩樹	91	72.1
14位	奥村 和敬	96	72.3
15位	松本 泰尚	87	72.8
16位	中崎 勇吉	80	72.9
17位	加納 陽子	106	72.9
18位	岡田 奉幸	78	73.3
19位	濱橋 博	87	74.0
20位	井関 茂	100	74.0
21位	石丸 文男	87	74.0
22位	小谷 怜	100	74.0
23位	玉川 忠	93	74.1
24位	小谷 拓司	93	74.1
25位	前根 伸彦	86	74.2
26位	森田 道彦	91	74.4
27位	森下 和人	90	74.6
28位	松岡 良明	89	74.8
29位	江本 克也	88	75.0
30位	竹本 雄二	99	75.3

（概況報告）

オリンピック年の関係で連休が無くなり開催会場を鳥取CCから旭国際ゴルフ倶楽部に変更となりました。（参加者からの要望もあった会場です）

当日は気温も高めで絶好の快晴のコンディションにも恵まれ参加者も47名と昨年に比べ大幅な増加で皆様に喜んでいただけた大会となりました。

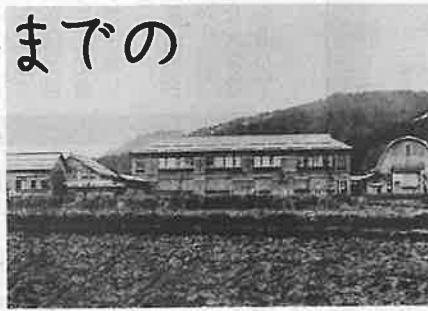
又、コロナ禍の影響でGo-Toキャンペーンの効果もあったと思われま。

今年度は石丸新会長の就任あいさつ、学校創立100周年に向けての募金お願い等をお聞きしながらの表彰式となり、優勝の山根宏さん（山脈17回）はじめ各賞に入られた方々への表彰が行われ、懇親会の後記念撮影をもって解散となりました。

令和4年度 東雲会長杯 兼 創立百周年記念コンペ
旭国際 湖山コース
9:28スタート（14組予定）
※お誘い合わせの上、奮ってご参加ください。



鳥取東高等学校 創立100周年までの 軌跡



昭和初期の校舎全景
昭和5年



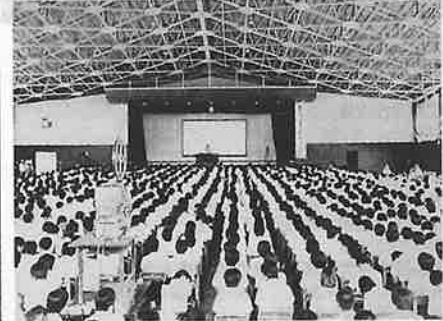
二中創立10周年記念祝賀会
昭和7年10月23日



創立40周年記念「同窓会館」
昭和38年12月15日落成



創立50周年記念演奏会(大阪フィルハーモニー)
昭和47年11月4日



創立60周年記念講演と上映(マタギ)
昭和57年6月22日



創立70周年記念式典
平成4年6月22日



創立80周年記念演奏・鳥取東高吹奏楽部
平成14年6月23日



春の正面玄関

事務局長 村上 千春 (山39)	事務局長 近藤 健 (山33)	事務局長 滝波 和宏 (山24)	顧問(校長) 中島 靖雄 特別委員	顧問 常田 賢二 (山42)	顧問 島谷 龍司 (山29)	顧問 中島 規夫 (山27)	顧問 廣谷 直樹 (山22)	顧問 榎本 武利 (山21)	顧問 安住 庸雄 (柏24)	顧問 中村 忠文 (柏21)	名譽顧問 常田 享詳 (山13)	名譽顧問 八村 輝夫 (山7)	名譽顧問 井上江美子 (山22)	監査 吉本 幾雄 (山21)	監査 木村 憲司 (山47)	監査 谷 英憲 (山41)	監査 清水 葉子 (山31)	監査 森田 靖彦 (山30)	監査 上山 弘子 (山28)	監査 清水 雄作 (山27)	監査 米村 年博 (山24)	監査 油谷 博文 (山24)	監査 上杉 栄一 (山17)	監査 橋本 和憲 (山16)	監査 川口東洋輔 (山12)	副会長 清水 昭允 (山6)	会長 石丸 文男 (山24)
------------------------	-----------------------	------------------------	-------------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	------------------------	-----------------------	------------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

鳥取東高校同窓会 (東雲会) 役員表

〔任期：令和2年8月〜令和4年7月〕



オンライン授業や分散登校など大きな変化が学校現場にも押し寄せ、生徒も職員もこれまでと同じ学校生活を送ることが難しい状況の中で、より良い方法や自分を納得させるものを模索しながら生活している。色々な思いを抱えながら自己実現に向けて努力を重ね、学校行事を全力で楽しみ、3年間で大きく成長する生徒の姿に頼もしさを感じると共に、20数年前の自分も希望に満ち溢れ学校生活を送っていたのだらうかと思いを巡らせる。生徒たちの持つ可能性とこの学び舎で得たものは何にも奪われることはなく、卒業後いつか仲間と「そんなこともあったな」と笑って再会することを願い編集後記とする。

秦野 大樹 (山50)

主な大学の合格者数	山口大学	4	下関市立大学	2
埼玉大学	徳島大学	1	山口県立大学	2
横浜国立大学	鳴門教育大学	1	高知工科大学	2
金沢大学	香川大学	3	北九州市立大学	2
信州大学	愛媛大学	5	慶應大学	1
静岡大学	高知大学	4	明治大学	2
名古屋大学	九州大学	1	立教大学	4
京都教育大学	九州工業大学	1	京都産業大学	30
大阪大学	国際教養大学	1	同志社大学	2
神戸大学	大阪公立大学	1	立命館大学	8
奈良女子大学	兵庫県立大学	1	龍谷大学	53
鳥取大学	公立鳥取環境大学	23	関西大学	4
島根大学	島根県立大学	6	近畿大学	41
岡山大学	新見公立大学	5	関西学院大学	5
広島大学	福山市立大学	2	甲南大学	5

3月31日現在

な。過去5年間の合格者現役・過卒の合計の状況及び主な大学の合格者数は表の通りです。

令和4年度入試は、共通テストで一部の教科の平均点が大きく下がり、出願が難しい状況がありました。現役生、過卒生ともに最後まで粘り強く受験に臨み、良好な成績を残して合格した。特に現役生は国立公立大学に150名合格し、卒業者数に対し54%の合格率となりました。旧帝国大学は計3名合格(現役2名、過卒1名)しました。看護系の専門学校や公務員(国家・消防)についてもよく努力し、多くの生徒が目標としていたところに合格することができました。

	H30	H31	R02	R03	R04
国公立大	144	155	172	207	164
私立大	319	344	328	352	445
短大	25	21	15	23	15
専修学校等	40	63	43	58	44
計	528	583	558	640	668

R04については3月31日現在

令和4年度の入試の状況



部活動報告

運動部

柔道

- 鳥取県高校総体
 - 男子団体(準優勝)
- 鳥取県高等学校柔道新人戦
 - 男子団体(準優勝)
 - 男子81kg級(準優勝)、女子70kg級(準優勝)
- 第22回中国高等学校柔道新人大会
 - 男子団体出場 中国大会
- 全国高等学校柔道選手権大会鳥取県大会
 - 男子66kg級(準優勝)、男子81kg級(準優勝)
 - 女子無差別級(準優勝)

陸上競技

- 鳥取県高校総体
 - 男子八種競技(準優勝)
- 中国高等学校陸上競技対抗選手権大会
 - 男子八種競技(第6位) 中国大会
- 中国五県陸上競技対抗選手権大会
 - 男子3000mSC(第8位) 中国大会
- 第64回高校新人陸上競技大会
 - 男子800m(準優勝)、男子砲丸投(優勝)
 - 女子円盤投げ(優勝)
 - 女子400m(優勝)、女子5000m競歩(優勝)
 - 女子やり投げ(準優勝)
- 第30回中国高等学校新人陸上競技対抗選手権大会
 - 男子800m(第4位)、女子400m(第8位) 中国大会
- 第56回鳥取県高等学校総合体育大会 駅伝競走
 - 男子(第6位)、女子(第5位)
- 男子第63回・女子第35回中国高等学校駅伝競走大会
 - 男子・女子出場 中国大会

テニス

- 鳥取県高校総体
 - 女子団体(準優勝)、女子シングルス(優勝)
- 中国高校テニス選手権
 - 女子シングルス出場 中国大会
- 第76回国民体育大会テニス競技少年の部鳥取県予選
 - 女子シングルス(準優勝) 全国大会
- 全国高等学校総合体育大会テニスの部
 - 女子シングルス出場 全国大会
- 鳥取県高校テニス新人戦 団体の部
 - 女子団体(第3位)
- 中国高校新人テニス大会
 - 男子・女子シングルス・ダブルス出場 中国大会

ソフトテニス

- 鳥取県高校総体
 - 女子団体(第3位)
- 第57回鳥取県高等学校ソフトテニス新人戦
 - 男子団体(第3位)、女子団体(第3位)
- 第47回鳥取県高等学校ソフトテニス大会
 - 男子団体(第3位)、女子団体(第3位)
- 第12回中国高等学校ソフトテニス新人大会
 - 男子団体・女子団体出場 中国大会

サッカー

- 鳥取県高校総体 女子(第3位)

バスケットボール

- 鳥取県高校総体
 - 女子(準優勝)
- 中国高等学校選手権大会
 - 女子出場 中国大会
- 第74回全国高等学校バスケットボール選手権大会鳥取県予選会
 - 女子(第3位)
- 鳥取県高等学校バスケットボール新人大会
 - 男子(第3位)、女子(第3位)

卓球

- 中国高校選手権
 - 男子団体・シングルス出場 中国大会
- 中国卓球選手権
 - 一般男子シングルス出場 中国大会
- 第58回鳥取県高等学校卓球新人戦大会
 - 女子学校対抗(第6位) 中国大会
- 野球
 - 第103回全国高校野球選手権鳥取大会 ベスト4
 - 秋季鳥取県高等学校野球大会 ベスト4

ボート

- 鳥取県高校総体
 - 男子舵手付きクオドルプル(準優勝)
 - 女子舵手付きクオドルプル(優勝)
 - 女子シングルスカル(準優勝)
- 全国高等学校総合体育大会ボート競技
 - 女子舵手付きクオドルプル出場 全国大会
- 鳥取県高校ボート新人戦兼全国高校選抜ボート大会鳥取県予選会
 - 男子舵手付きクオドルプル(準優勝)
 - 男子ダブルスカル(準優勝)
 - 女子舵手付きクオドルプル(優勝)
 - 女子シングルスカル(準優勝)

- 第33回全国高等学校選抜ボート大会中国地区予選
 - 女子舵手付きクオドルプル(第3位) 中国大会
 - 女子シングルスカル(第5位) 中国大会

- 第33回全国高等学校選抜ボート大会
 - 女子舵手付きクオドルプル出場 全国大会

ビームライフル

- 鳥取県高校総体
 - 男子ビームライフル団体(優勝)
 - 男子エアライフル立射60発(優勝)
 - 男子ビームピストル立射60発(優勝)
 - 女子ビームライフル団体(優勝)
 - 女子エアライフル立射60発(第3位)
- 全国高等学校総合体育大会ライフル射撃競技会
 - 男子エアライフル立射60発出場 全国大会
 - 男子ビームライフル立射60発出場 全国大会
 - 女子エアライフル立射60発出場 全国大会
 - 女子ビームライフル立射60発出場 全国大会

- 第5回鳥取県高校ライフル射撃競技新人大会
 - 男子エアライフル立射60発(優勝)
 - 女子800mフリーリレー(準優勝)
 - 男子ビームピストル立射60発(優勝)
 - 女子ビームピストル立射60発(優勝・準優勝)

- 第6回中国高等学校ライフル射撃競技新人大会
 - 男子エアライフル立射60発(第6位) 中国大会
 - 男子ビームピストル立射60発(第6位) 中国大会

水泳

- 鳥取県高校総体
 - 女子総合成績(第3位)
 - 女子400mメドレーリレー(準優勝)
 - 女子200mフリーリレー(準優勝)
 - 女子200m個人メドレー(優勝)
 - 女子400m個人メドレー(優勝・大会新記録)
- 第69回中国高等学校選手権水泳競技大会
 - 女子200m個人メドレー(優勝) 中国大会
 - 女子400m個人メドレー(準優勝) 中国大会
- 全国高等学校総合体育大会水泳競技大会
 - 女子200m個人メドレー出場 全国大会

- 第44回全国ジュニアオリンピックカップ夏季大会鳥取県予選会
 - 200m個人メドレー(標準記録突破)

- 第44回全国ジュニアオリンピックカップ夏季大会
 - 200m個人メドレー出場 全国大会

第71回鳥取県高等学校新人水泳競技大会

- 男子100m背泳ぎ(準優勝)、男子200m背泳ぎ(優勝)
- 男子200mバタフライ(準優勝)
- 女子50m自由形(準優勝)

フェンシング

- 鳥取県高校総体
 - 男子フルール(準優勝)、女子エペ、フルール(優勝)
- 全国高等学校総合体育大会フェンシング大会
 - 男子フルール出場、女子エペ出場 全国大会
- 鳥取県高等学校フェンシング新人戦
 - 男子フルール、エペ(優勝)
- 第16回中国高等学校フェンシング新人大会
 - 男子フルール出場 中国大会

空手

- 鳥取県高校総体
 - 女子組手(準優勝)
- 全国高等学校総合体育大会
 - 女子組手出場 全国大会

文化部

放送

- 第68回NHK杯全国放送コンテスト鳥取県大会
 - ラジオドキュメント部門 最優秀賞
- 第68回NHK杯全国放送コンテスト
 - ラジオドキュメント部門 全国大会
- 鳥取県高等学校総合文化祭 放送部門
 - ビデオメッセージ部門 奨励賞
 - アナウンス部門 優秀賞
 - 朗読部門 奨励賞
- 第41回近畿高等学校総合文化祭 放送部門 近畿大会
 - 全国高等学校総合文化祭 放送部門
 - アナウンス部門 全国大会

邦楽

- 県高等学校文化連盟音楽4部門別発表会 日本音楽の部
 - 優秀賞(2位相当)

- 第41回近畿高等学校総合文化祭 近畿大会

文芸

- 全国高等学校総合文化祭 文芸部門
 - 俳句 全国大会

美術

- 第36回鳥取県高等学校総合文化祭美術・工芸展
 - 学校奨励賞

書道

- 第14回書道パフォーマンス甲子園中国ブロック予選
 - 第2位 中国大会
- 第14回書道パフォーマンス甲子園 全国大会
- 第15回全国高校生大作書道展
 - 大作優秀賞(全国4位相当) 全国大会
- 第30回国際高校生選抜書展
 - 団体 中国地区優秀賞 全国大会
 - 個人 準大賞(全国3位相当) 全国大会
- 第41回近畿高等学校文化祭 書道部門 近畿大会
- 第53回県高校書道展
 - 連盟賞(高総文祭代表)

吹奏楽

- 鳥取県高等学校文化連盟音楽4部門別発表会
 - 独奏の部 優秀賞(第2位)

- 第41回近畿高等学校総合文化祭 近畿大会

将棋

- 全国高等学校文化連盟将棋新人大会鳥取県予選
 - 男子個人(第5位)
- 第20回中国地区高等学校将棋選手権大会
 - 男子個人(第27位) 中国大会